



# 未来へつなぐ

Vol.  
165

文／本間 吾里砂

登別駅の利便性向上に向け、駅のバリアフリー化と駅舎整備に着手  
二〇二五年度の完成を目指し、新駅舎の建設工事もスタート

## 変わる登別駅 利便性も向上

日本有数の温泉郷として知られる登別市。その玄関口として多くの観光客を迎え

入れてきた登別駅は、待合室の広さが十分ではなく、駅構内にはエレベーターがありません。そのため、観光シーズンは列車待ちのお客様で混雑が生じるとともに、大きな荷物を持ったお客様や身体の不自由なお客様は階段での移動を余儀なくされます。そうし

た状況を受け、JR北海道では今年度夏から登別駅のバリアフリー化と、新駅舎の建設を含めた駅舎整備に着手しました。

まずバリアフリー化は、ホームと改札の行き来をよりスムーズにするため、乗換線橋とエレベーター二基を新設。さらに車いす・オストメイト対応のバリアフリートイレも整備します。いずれも、国および登別市から全額補助を受けて実施し、使用開始時期は二〇二五年度を予定しています。

## 二〇二五年度に新駅完成 道・市による周辺整備も

次に駅舎整備については、今年三月一日、登別駅の東側にオープンした登別市観光交流センター「ヌプル」と現駅舎の間に新駅舎を建設し、連携を図ることで利便性の向上を目



登別駅全体整備イメージ



新駅舎内観イメージ

指します。新駅舎のコンセプトは「歴史に学び、現在を刻み、未来へと流れる駅」「道内有数の温泉地の玄関口として温泉街の風情を感じる駅」。完成は二〇二五年度の予定です。

一方、一九三五年（昭和一〇年）に完成し、今年で八十八年目を迎えた現駅舎は登別軟石を使用するなど、長い歴史と趣を持つ建物で、列車を利用するお客様はもちろん、地域の人々にも愛されています。その思いに込めるため、新駅舎完成後に現駅舎のリフ

レッシュ工事をを行い、列車を利用するお客様の待合スペースや地域の人々の憩いの場として活用します。使用開始時期は二〇二六年度を予定しています。

また環境に配慮した取り組みとして、新駅舎と現駅舎の屋根南面に太陽光パネルを設置し、駅で使用する電力の一部を賄います。これは、駅では初の試みとなります。

このほか、北海道による登別駅前広場の改修や、登別市による市道石山通の拡幅工事なども予定されており、今後はJR北海道を含む三者で歩調を合わせながらそれぞれの取り組みを進めていきます。完成後はより便利になり、イメージを大きく変えることになる登別駅と周辺エリアが、地元登別市や北海道にどんな効果をもたらすか、その動向に注目が集まっています。